

学校法人中国学園
中国短期大学
機関別評価結果

平成22年3月18日
財団法人短期大学基準協会

中国短期大学の概要

設置者	学校法人 中国学園
理事長名	中島 博
学長名	松畑 熙一
ALO	橋内 幸子
開設年月日	昭和37年4月1日
所在地	岡山県岡山市北区庭瀬83番地

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
総合生活学科		85
保育学科		100
英語コミュニケーション学科		55
音楽科		50
情報ビジネス学科		80
	合計	370

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

専攻科	専攻	入学定員
専攻科	介護福祉専攻	40
専攻科	音楽専攻	20
	合計	60

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

中国短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成22年3月18日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成20年7月17日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学は、女性の知性と教養、それにも増して精神的にも人間的にも思いやりのある心豊かな感性を身に付けた人を育てるために「文化の香りのする、心ある、そして風格のある大学をめざして」を建学の精神として設立され、時代と社会の変化にかんがみ、点検・見直しが定期的に行われている。この建学の精神、教育理念を基に各学科において教育目標を定め、オリエンテーション等で学生に分かりやすく説明を加えると同時に、具体的に教育課程の整備、資格の整備として具現化する努力がなされている。

建学の精神を基に、教育目的に則して教育課程が体系的に編成されており、その教育課程の内容も充実したものとなっている。また、学科の壁を越えた自由履修制度を設けることにより学生の多様なニーズにこたえることができている。免許取得、資格取得、検定試験に対応した教育課程を編成することで学生の目標を明確にし、モチベーションを高めることができている。授業改善においても、授業評価、公開授業、ファカルティ・ディベロップメント（FD）研修会を通じて組織的な取り組みがなされている。

校地及び校舎の面積は、短期大学設置基準を充足している。教員数においては短期大学設置基準の定数を大きく上回って配置されており、担任、副担任として学生の授業、実習、就職に対応している。図書館運営についても、大学と共有ではあるが、十分な広さと蔵書数を兼ね備えており、学生の視点に立った図書選定を行うなど適切な図書館運営がなされている。

教育目標の達成度と教育の効果は、全般的に適切と判断できる。多くの資格取得を目指す教育課程が整備され、その取得率の実績は極めて高く、教育の成果をあげている。また授業についても、学生の授業満足度に十分に配慮し、授業改善への努力や工夫などFD活動に組織的に取り組んでいる。

進路支援に関しては、専門職という観点で判断するならば保育学科については十分な就職率であるものの、他の学科については専門性の問題から専門職就職が少ないの

が現状である。しかしながら、短期大学あつ旋の就職が 80 パーセントを超えているのは、就職先からの評価が高いことがうかがえると同時に担任制度を設け、きめ細かい指導を行うなど、学生のニーズを十分に考慮した個々の学生に対する能力開発を行っていることがこのような成果を生み出している。

教員の研究活動に関しては、科学研究費補助金等の外部資金の調達に向けて申請を行い、過去 3 ヶ年の間に共同研究において調達した実績がある。また、学長自ら「地域と連携する大学」をモットーに社会的活動を積極的に行っており、地域連携センターを開設し充実と活性化を図っている。学生についても 20 パーセントを超える学生がボランティア活動に参加するなど社会的活動の重要性を認識し自主的に取り組みを行っている。

学校法人は、理事会、評議員会、経営会議などが諸規程に基づき適切に運営されており、理事長のリーダーシップが発揮されている。短期大学においては、学長のリーダーシップの下に教授会の運営が規程に基づいて適切に行われている。その結果、定員未充足の学科が存在するものの、財務体質は健全であり、適切な財務運営がされている。

さらに自己点検・評価の重要性を認識し、規程を整備するとともに学長を中心とした委員会の下に多くの教職員が関与する形で「自己点検・評価報告書」を定期的に発行しており、改善へとつなげている。また、この第三者評価を通じて改革・改善に向けての努力がうかがえる。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域 I 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」を受けて、早々にアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを明確にし、ウェブサイト公開するなど積極的な情報公開に向けて取り組んでいる。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 自由履修制度（CMPーチュウタンマイドリームプログラム）を発足させ、他学科の開講科目を履修できる制度を設けることによって、学生のニーズに対応できるとともに、各学科において多くの資格が取得できるよう教育課程が編成されている。
- 英語コミュニケーション学科においては国際理解教育の一環で海外研修制度を設け単位認定を行っている。この制度を利用することで2年次後期からの継続的な留学が可能となっている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- クラス担任及び副担任を設け、学生生活全般にわたり学科内会議等で連携をとって学生指導を行っている。
- 平成20年度教育・学習方法改善支援（日本私立学校振興・共済事業団）に採択され、地域共創型の絵本ミュージアムを設立し、地域と共創する学生の主体的参加学習を支援するなど、地域に開かれた図書館運営を実施している。
- 学生図書選定委員会を月1回開催し、書店に出向き学生の視点から選書するブックハンティングを年2回行っている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 各学科において多くの資格取得に対応しており、取得率が非常に高い。

評価領域Ⅴ 学生支援

- リーダーズキャンプを実施し、リーダーとしての資質向上と学友会組織の活性化に努めている。また、クラブ活動が盛んであり、ソフトボール部のように全国大会に出場するクラブを有している。
- 就職支援システム「CRICS」を導入し、オンタイムで学生に就職情報を提供するなど就職支援体制が整っており、その成果として8割を超える学生が短期大学あつ旋によって就職している。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 全専任教員に高大連携可能な科目テーマ、講義概要、時間等調査を行い、講義データベースを作成するとともに、県内の高等学校と連携協力に関する協定を締結し、様々な支援を行っている。

（2）向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- シラバスについては、授業到達目標と授業概要を明確に分け、記載することが望ましい。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 委員会活動を見直し、短期大学独自で開催する委員会、併設大学と合同で行う委員会を区別させ機能的にすることが望まれる。

評価領域Ⅸ 財務

- 情報に対するセキュリティ対策若しくはガイドラインを整備することが望まれる。
- 防災訓練が行われていないので、地元の消防署と連携を図り防災訓練を行うことが望ましい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

当該短期大学は女性の知性と教養、それにも増して精神的にも人間的にも思いやりのある心豊かな感性を身に付けた人を育てるために「文化の香りのする、心ある、そして風格のある大学をめざして」を建学の精神として設立された。その後、時代と社会の変化にかんがみ、点検・見直しが定期的にされており、パンフレットやウェブサイト等の媒体や学長の式辞などを通じて内外に広く周知するように努めている。教育課程のフレッシューズセミナーにおいて学長自らが建学の精神について講義を行っている。また、各学科において教育目標を定め、オリエンテーション等で学生に分かりやすく説明を加えると同時に、具体的に教育課程の整備、資格の整備として具現化する努力がなされている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

各学科の教育目標に即して、教育課程は体系的に編成されている。その教育課程の内容も充実したものとなっている。また、学科の壁を越えた自由履修制度を設けることにより学生の多様なニーズにこたえることができている。さらに、免許取得、資格取得、検定試験に対応した教育課程を編成することで学生の目標を明確にし、モチベーションを高めることができている。授業改善においても、授業評価、公開授業、FD研修会を通じて組織的な取り組みがなされている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

各学科に配置されている教員数は短期大学設置基準を大きく上回っており、年齢バランスも良くとれているといえる。教員は短期大学の教員にふさわしい資格と資質を有しており、個々の教員が教育研究、短期大学運営、社会貢献に取り組んでいる。特に教員が担任、副担任業務を行うなど積極的に学生支援に当たっている。教員組織は適切に整備され、採用と昇任に関しては規程に基づき適切に行われている。また、教育目標達成のための必要な教育環境、施設は整備されており、すべてにおいて短期大学設置基準を大きく上回っている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

単位の認定状況は、出席状況や受講状況、筆記試験、レポート、作品提出、ノート提出、実技試験など、それぞれの授業の特性に対応した評価が行われており、単位の取得状況はおおむね良好である。ただし、成績評価に若干のバラツキがあるので、組織的な評価制度の導入を検討することが望ましい。

評価領域Ⅴ 学生支援

入学に関する支援は、学校案内や募集要項、ウェブサイト、オープンキャンパスなどを通じて適切に行われており、入学手続き者に対しても学科ごとに必要な情報を提供するなどきめ細かい支援がされている。

学習支援については、「学生便覧」を指針にして学科ごとにきめ細かい履修指導などのオリエンテーション、ガイダンスが組織的に行われている。また、補習授業や習熟度別授業など学生のレベルに即した的確な指導がされ成果をあげている。

就職支援については、専門性の観点から保育学科においては専門職就職率が高いが、他の学科においては専門職への就職率は極めて難しい状況であるといえる。しかしながら、一般就職を含め当該短期大学が独自のシステムを導入するなど積極的に支援体制を整えており、短期大学あつ旋が 80 パーセントを超える素晴らしい状況である。

多様な学生に対する支援は特別選抜制度を設けるなど体制は整えているが、実際に入学してくる学生は少ないのが現状である。

評価領域Ⅵ 研究

教員の大多数が、著作、論文、学会発表、コンサートなどを行っており、教員は総じて研究に意欲的に取り組んでおり、前年度の実績については研究紀要に掲載し公開している。科学研究費補助金等の外部資金の調達に向けて申請を行い、過去 3 ヶ年の間に共同研究において調達した実績がある。

評価領域Ⅶ 社会的活動

短期大学における教育・研究と同様に、地域社会活動を通じて貢献することを、非

常に重要な事項として認識し、学長自ら「地域と連携する大学」をモットーに社会的活動を積極的に推進、実行している。また、社会的活動を一つの大きな事業としてとらえ地域連携センターを開設し充実と活性化を図っている。

学生の社会的活動は、約 20 パーセントの学生がボランティア活動に参加し、学生を中心とした部会を立ちあげて積極的にかかわる体制が整っていると同時に各方面より評価されている。

国際交流などの取り組みは、留学生の受け入れは少ないものの、英語コミュニケーション学科を中心に学生の海外への短期・長期派遣などを行い、単位認定の仕組みまで構築されている。教員についても長期での派遣はないものの、海外の学会での口頭発表やシンポジウムのパネリストとしての参加など積極的に取り組んでいるといえる。

評価領域Ⅷ 管理運営

私立学校法にのっとり、理事会は理事長がリーダーシップを発揮し、学園の最高意思決定機関として機能させている。また、理事長の諮問機関として「学校法人中国学園経営会議」を設置し、社会の急激な変化に迅速かつ円滑に対応する体制が整えられている。監事については、学校法人以外の者から評議員会の同意を得て選出され、監査業務を行っているが、現在のところ、業務監査については十分には行えておらず、監事のサポート体制をとる必要があると思われる。

短期大学の運営全般には学長の強力なリーダーシップの下に、教授会を中心に教学の議論がなされている。教授会の諮問機関である委員会組織は大学と共同で行われており、十分に機能しているとはいえない。

事務職員及びその組織は、合理的に組織化されており、諸規程に基づいて適切に運営されている。スタッフ・ディベロップメント（SD）活動に関しても外部団体の研修制度及び独自の研修制度において能力向上に努めている。

評価領域Ⅸ 財務

学校法人全体の中・長期財務計画書は作成されていないが、毎年度の事業計画と予算編成については基本方針に基づいて予算見積書を作成の上、学内で予算折衝を行った後に評議員会の意見を聞いた上で、理事会にて承認するなど適切に運営されている。公認会計士及び監事による財務監査も行われており、適切に財務運営がなされている。

財務状況については、過去 3 ヶ年にわたり均衡を保っているが、定員を大きく下回る学科があり、今後の財務体質に影響を与える可能性があるため改善が望まれる。

施設設備の管理は、諸規程に基づいて適切な管理が行われていると同時に、危機管理規程を制定するなど組織的に取り組んでいる。

評価領域Ⅹ 改革・改善

自己点検・評価の重要性を認識し、規程を整備するとともに審議を重ね「自己点検・

評価報告書」を平成 8 年より定期的に発行している。第三者評価を受けるにあたり、ALO を中心にした実施体制が整備され、当初は授業改善を中心とした報告書から本協会が示す評価項目に準拠する形で形成されている。

学長を中心とした委員会のもとに多くの教職員が関与する形で「自己点検・評価報告書」が作成されている。また、報告書を基に主に授業の改善を中心とした改善計画が行われている。また、学生のアンケートを基に改善につなげている。

相互評価に関しては実施されていないが、教育に焦点を当て、他大学との公開授業・授業参観方式で相互に評価を行っている。今後、組織的な相互評価を行う意欲は積極的であり、様々な評価を通じて当該短期大学の改革・改善に結び付けようとする意欲をうかがうことができる。